

5月31日(土)・6月1日(日)開催
第2回「西武・電車フェスタ / 検修場まつり」

西武鉄道最大の車両検修施設「武蔵丘車両検修場」を公開します。(入場無料)

西武鉄道(社長:戸田博之)では、5月31日(土)・6月1日(日)に武蔵丘車両検修場(埼玉県日高市)において第2回「西武・電車フェスタ / 検修場まつり」を開催します。

このイベントは、地域住民および日頃西武鉄道をご利用いただいているお客さまをはじめ、多くの皆さまに当社事業への理解を深めていただくとともに電車に親しんでいただけるよう、当社最大の車両検修施設である武蔵丘車両検修場を、昨年初めて一般公開して行ったもので、今年で第2回目となります。

車両の検査や整備の実演などを通して同検修場で日ごろ行われている業務の一部を紹介するほか、車両の展示・撮影会、鉄道グッズや部品の販売、鉄道模型の運転、鉄道写真の展示、ミニSLの運転など盛りだくさんな内容で、ご家族連れにも楽しんでいただけるイベントとなっています。

また、このイベントは日高市・飯能市などの後援で行われるもので、会場では両市の観光物産展や、飯能吹奏楽研究会・日高市吹奏楽団の演奏会も開催されます。

なお、来場されるお客さまの利便を図るため、飯能駅～武蔵丘車両検修場間に直通特別電車(往路2本・復路3本)および直通無料送迎バスを運転します。

詳細は、別紙の通りです。



昨年の会場内の様子

< 第 2 回「西武・電車フェスタ / 検修場まつり」のご案内 >

開催日時 5月31日(土)・6月1日(日) 10:00~15:00

開催場所 武蔵丘車両検修場(埼玉県日高市台462-1)

交通 西武池袋線・高麗駅下車、徒歩約12分
飯能駅~武蔵丘車両検修場間に直通特別電車および直通無料送迎バスを運転します。

・直通特別電車

飯能駅発(往路2本)	9:41	10:37	
武蔵丘車両検修場発(復路3本)	13:00	14:00	15:00

西武池袋線・東飯能駅までの乗車券が必要となります。

飯能駅発10:37発の電車は池袋駅からヘッドマーク付きで運転します。

(池袋駅発9:34 所沢駅発10:06 飯能駅着10:32)

東飯能駅には止まりません。

満員の場合にはご乗車になれない場合がございます。

・直通無料送迎バス

10:00~16:00まで約30分間隔で運転します。

交通の状況により運転間隔が変わる場合がございます。

入場料 無料

- 主な内容
- ・実演・体験コーナー
 - リフティングジャッキによる台車抜き作業の実演
 - 塗装ロボットの实演
 - トラバーサー乗車体験
 - 特急乗務員室乗車体験
 - パンタグラフの操作体験 ほか
 - ・特急車両展示・作業車展示
 - ・ISO(環境)活動の展示
 - ・鉄道模型の展示・運転会
 - ・鉄道部品・鉄道関連グッズ・限定パスネット等の販売
 - ・西武オリジナル商品の販売(「チョコQ」・「キーホルダー」等)
 - ・ミニSLの運転(有料)
 - ・日高市・飯能市物産展
 - ・スーパーベルズ モーターマン ミニライブ(5/31)
 - ・立川真司 電車でGOものまねショー(6/1)
 - ・飯能吹奏楽研究会・日高市吹奏楽団の演奏会 ほか

お客さまのお問い合わせ先 西武・電車フェスタ / 検修場まつり実行委員会
(0429)80-1367

<ご参考> 武蔵丘車両検修場について

武蔵丘車両検修場は平成12年6月に完成した当社最大の車両検修施設で、車両の主要部分を分解して行う定期検査などを実施しています。緑豊かな奥武蔵の自然に囲まれ、近隣には閑静な住宅地があることから、自然との共存および近隣との協調を目指す施設として、周辺環境に配慮し、騒音・排気ガス・臭気・粉塵・汚水対策などを施しており、平成12年12月には環境管理システムの国際規格である「ISO14001」の認証を取得しています。

所在地	埼玉県日高市台462-1
敷地面積	84,750㎡(約25,637坪)
建物面積	36,213㎡(約10,954坪)
業務内容	鉄道車両の全般検査、重要部検査、臨時検査および改良ほか
検修能力	年間480両
主な特長	<地球環境への配慮>

車体移動を、クレーンを使用せず、トラバース方式として検修棟の高さを低くし、棟全体を屋根で覆うことにより、騒音対策を講じています。

従来ガソリンが主であった、牽引車、フォークリフト等の動力を極力電気とし、排気ガス対策を講じています。

床下清掃、車体塗装等の作業場を区画し、騒音対策を講じるとともに、脱臭装置、集塵装置を使用し、臭気、粉塵対策を講じています。

作業過程で生じる汚水を浄化槽で処理し、トイレ用水として再利用しています。

<作業の効率化、省力化>

床下機器清掃装置を導入。

台車、主電動機、輪軸の検修をライン化。

車体塗装装置を車両移動方式とし、併せて乾燥装置を導入。

この資料は次のところにお届けしています。

国土交通記者会

ときわクラブ

所沢記者クラブ

立川市政記者クラブ

各社都内版担当

西武沿線の新聞社支局